

④5 北見市庁舎建設事業

受賞機関 北見市

キーワード 中心市街地の活性化、市庁舎建設、
ZEB Oriented認定、書かないワンストップ窓口

全建賞審査委員会の評価ポイント

中心市街地での市役所の新庁舎整備。床吹き出し空調などの環境負荷低減技術を積極的に採用することによりZEB Orientedを実現するとともに、執務室のワンルーム化等によりフレキシブルなオフィスを実現し、業務のデジタル化に対応した市民の利便性に寄与する施設整備を実現した点が評価された。

1. はじめに

本事業は、「つどい・にぎわい・つながる 市民のための庁舎」を基本理念に、市内11ヶ所に分散した本庁舎機能を集約し、北見駅に隣接する商業施設と接続することにより、市民サービスの向上に加え、交流や賑わいを創出する地域交流拠点として中心市街地の活性化に寄与することを目的とした市庁舎建設事業である。

2. 事業の概要

本事業は2015年に基本設計に着手し、2021年に完成した。規模は地上7階、地下1階、鉄骨鉄筋コンクリート造（一部鉄骨造）、建築面積3,113.3㎡、延床面積17,213.01㎡である。

設計に当たり、北見市の中心市街地に立地しランドマークとなることから、どの季節にも景観を損ねることのない白を基調としたデザインとした。また1・2階はガラスカーテンウォールを採用し開放性を高め、内装を地域のトドマツで仕上げ温かみのある空間とし、市民交流スペースを配置することで、中心市街地と賑やかさが連続するよう「明るくオープンな空間」を創出した。

2階には隣接する商業施設とつながる連絡通路（スカイウォーク）を設け、市民作品展示の場としても利用している。

執務室はワンルーム化、ユニバーサルレイアウトの採用によりコンパクトでフレキシブルなオフィスを実現した。



庁舎外観（東側・スカイウォーク）

省エネルギー性の高い庁舎を目指し、30kW太陽光発電パネルや一部に地中熱ヒートポンプによる冷暖房を採用した。LED照明のゾーニング制御による省エネルギー化を図り、PC外断熱や断熱サッシ・Low-E複層ガラスを用いエネルギー損失の低減を図った。

3. 事業の成果

主な執務室の天井は天井板を使用しない構造体あらわしとして天井落下災害のリスクを軽減するとともに、OAフロアの床下空間を活用した床吹き出し式空調システムにより快適かつ効率的なオフィスを実現している。

庁舎の設計に当たり環境負荷低減に努め、省エネ基準からエネルギー消費量を47%削減しており、BELS（建築物省エネルギー性能表示制度）における最高ランクである5つ星を獲得し、ZEB Oriented認定を取得した。

また、庁舎建設に合わせ独自開発のITシステムにより市民が申請書を記載する手間を省いた窓口業務を実現し、「書かないワンストップ窓口」として来庁者の利便性を高めた。



市民が申請書を記載しない窓口

4. おわりに

「書かないワンストップ窓口」は、令和4年度夏のDigi田甲子園「実装・市」部門のベスト4を受賞し、自治体窓口DXの先進的事例として、高い関心を集めている。

今後もより親しみやすく利便性の高い市庁舎を目指し、適切な運用と改善を図っていく。